

## <金標準先物、オシレーターの底打ちから 8000 円への戻り・・・>



(出所：オアシス)

消費者物価指数（CPI）の発表で事前予想を上回る前月比 0.5%、前年比 6.4%、コア前年比 5.6%と発表され、6月までの3回の利上げ観測が高まりを見せ、長期に渡り高水準の金利を維持する動きが強まりを見せている。特に小売売上高が3.0%となるなど2年ぶりの大幅増、NY 連銀製造業景気指数-5.8%で前月より大幅改善を示しており、マスター・クリーブランド連銀総裁やブラード・セントルイス連銀総裁が「3月会合で0.5%の利上げを支持する可能性を排除しない」と述べるなどタカ派の発言が行われている。

しかし週末にはパーキン・リッチモンド連銀総裁やボウマン FRB 理事が「0.25%の段階的な利上げを支持する」と述べるなど0.5%の過激な利上げ観測が後退し、金利低下に伴うドル安に買い戻しの動きを見せている。そのため金標準先物は7900円を維持するなど一時的な安値7807円から買い戻しを見せており、行き過ぎた金利高止まりかの動きを受けながら下値を模索している。ただ今週はユーロ圏消費者信頼感指数、米国製造業PMI速報値、FOMC議事録、GDPなどの発表が控えており、巻き戻しの動きに注意したいと思える。

### <テクニカル>

金標準先物の日足のMACDやRCIでは、MACDが下げ渋りながらシグナルが下げており、RCIは短期が上昇しながら長期は下げるなど基調は強気に転じる動きが予想される。また日足が10日移動平均線や40日移動平均線を上回るなど8000円へ向けた戻りを示唆する値動きを見せており、強気を維持するのが妥当に思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,840,000 円(2023 年 2 月 20 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2023 年 2 月 20 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会が開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>